

平成12年 3 月 31 日
原子力安全対策課
(11－ 161)
<11時資料配布>

新型転換炉ふげん発電所の原子炉起動および発電再開について
(平成11年度計画停止)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW）は、平成12年3月11日から平成11年度計画停止作業を実施していたが、4月2日夕刻に原子炉を起動し、翌3日午後に発電を再開する予定である。

1. 主要作業

(1) 燃料集合体の取替

燃料集合体224体のうち、16体を新燃料集合体と取替えた。取替えた新燃料はすべて二酸化ウラン燃料である。

(2) 機器・弁類の点検

原子炉およびタービン系機器・弁類の外観点検等を実施し、異常のないことを確認した。

(3) 蓄積放射能調査

(図－1 参照)

「ふげん」の廃止措置準備として、構造物に含まれる放射エネルギーを詳細に評価するため、第15回定期検査時に原子炉廻りやタービン建屋に設置した放射化箔の一部回収を行うとともに、新たに取付けを行った。

また、第15回定期検査時に引き続き、原子炉補助建屋壁のコンクリート試料の採取を行った。

2. 次回定期検査予定

平成12年 7 月上旬

原子炉格納容器

蒸気ドラム

原子炉再循環ポンプ

第15回定期検査時に降に原子炉廻り及びタービン建屋に設置した金属箔等の回収及び新規取付け

○金属箔等の種類と大きさ
(小型)金、コバルト、ニッケル、鉄
直径約1 cm、
厚さ約0.1~1mm
(大型)金
直径約5 cm、
厚さ約0.1mm
(粉末)ユーロウム、カリウム

○取付箇所 【 】内は今回の回収数
【 】内は今回の取付数
原子炉上部 8箇所(小型) 【 2】
原子炉側部 18箇所(小型) 【12】
原子炉下部 22箇所(小型) 【 9】
格納容器内 42箇所(大型) 【39】
タービン建屋内 14箇所(大型) 【 3】
原子炉補助建屋内 (小型) 【 4】
(大型) 【 4】

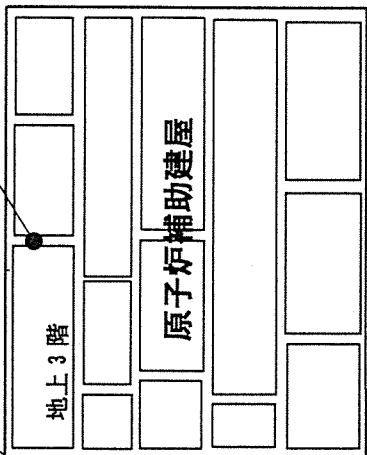
○測定方法
原子炉廻りに設置した金属箔は、運転中の中性子照射を受けて放射化する。
その金属箔を回収し、金属箔中の放射能量を測定することにより、原子炉運転中の中性子束分布を求める。

原子炉補助建屋コンクリートのサンプリング調査

○調査箇所
地上3階壁 4箇所

○測定方法
コンクリート中に含まれるトリチウムの量を測定する。

○サンプリング方法
ボーリングによるサンプリング
・ボーリング仕様
直径約7 cm
深さ約100 cm(貫通) 3箇所
30 cm 1箇所



		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
運転実績		第14回定検	第15回定検	*1 計画停止	
	金属箔	取り付け	●	●●●●	○
	取り外し			▲▲▲▲	△
コンクリートのサンプリング			■	■	□

*1：シールドプラグ機能低下に伴う原子炉手動停止（平成11年10月29日～平成11年11月30日）
*2：平成12年度以降については、それまでの実績に基づき具体的な計画を策定する予定。

図-1 平成11年度計画停止時 蓄積放射能量の調査概要図

< 参考 >

新型転換炉ふげん発電所の原子炉起動および発電再開に関する補足説明

○原子炉起動、臨界、発電再開の予定時刻

- ・ 原子炉起動 : 4 月 2 日 18時頃
- ・ 臨界 : 4 月 2 日 21時頃
- ・ 発電再開 : 4 月 3 日 14時頃